

みんな
地域で
作る

おもてなし

いよいよ幕開けの栃木DC!



昨年のプレDCに続き、4月から始まる本番DC。「いちごとみるくのスィーツ」「旅館の朝食」「巻狩鍋」「地酒」の4つの企画がいま花開こうとしている。これらの企画には、観光関係者だけでなく飲食店も多数参加。旅人をもてなす機運がまち全体で高まっている。DCの開始を目前に控え、お披露目会&決起大会が行われた。



論説委員に聞く！
このまちの魅力とは？

観光経済新聞社
論説委員
内井 高弘氏

Q. このまちの観光の強みと弱点は何でしょう？

強みは東京から新幹線で約1時間で温泉に行けるというアクセスの良さ。温泉の泉質も申し分ありません。あと、訪れて初めて知りましたが、美味しいお蕎麦屋さんが多いです。地元の人はいつでも当たり前前に食べられてうらやましいです。弱点としては、那須塩原駅前が他の観光地駅前に比べて、寂しいような気がします。

Q. によんの温泉100選でランクアップした理由は？

首都圏をターゲットに、これまで行ってきた広報活動の成果でしょう。メディアはもちろん、DC以前からJRとタイアップして首都圏の駅にポスター掲出を増やすなど、地道な努力が実っていると思います。

Q. さらに上位を目指すためには？

那須塩原市は生乳産出額が本州一位ということを知っている人は多くはないでしょう。その土地に行って味わってみて、ようやくその美味しさが分かるのです。今回のいちごとみるくフェアは、日本中のJR駅を中心に大きくPRすることもでき、訪れた人に味わってもらえることのできる、とても効果的な取り組みだと思います。

2018.4.1 > 6.30

那須塩原地酒物語への意気込みを聞きました！

美味しい栃木の地酒をたくさんのお客様に知ってもらいたいという思いから、4月から始まる「那須塩原地酒物語」。普段は日本酒をあまり飲まない方も利き酒なら試しに頼んでみようかなというお客様が多いそう。そして、お試して飲んで味を気に入ってもらえとお土産などで購入・・・とさらなる消費も期待されています。

酒蔵も旅館も伝統ある仕事。伝統にとらわれ過ぎず、互いに知恵を出し合って日本酒の魅力を広めていきます。



各店の詳細はこちら



市観光局 戦略会議
那須塩原地酒物語 担当
奥塩原高原ホテル
大塚 建一さん

飲食店や旅館が参画。各店が「ぜひうちのスイーツを」とより一層商品開発にも力をいれており、地域全体に旅人をもてなす機運が高まってきています。また、DC本番を迎える今年には、昨年から「朝食イッピン物語」に加え、「巻狩鍋フェア」と県内産地酒の利き酒が楽しめる「那須塩原地酒物語」の2企画が追加に。DCがこのまちにとって有意義なものになるよう、もてなす側としても、お客さんとしてもぜひ多くの方に参加してほしいと思っています。

動き出した食のプロジェクト
女性を意識したスイーツを磨くために昨年から始めたのが「いちごとみるくフェア」。観光局が主体となり、市商工会やJAなどに積極的に呼びかけ、連携し合いながら実施してきました。2年目となる今年には、前年の49軒を大きく上回る67軒もの

旅先を求めるものの上位を挙げると、「温泉」「郷土の食」「花や緑などの自然」「名所旧跡」となっています。これまで本市は、温泉の良さを最大のウリにやってやってきました。私が5年前このまちに来た時、観光客に訴えかける「郷土の食」が弱いと感じました。せっかく足を運んでくださったお客様にまた来たいと思ってもらうためには、「このまちだから食べられるもの」を磨き上げる必要があるのです。

旅人をもてなす食を磨く

旅行のカギとなる食を磨き上げる



市観光局
局長
木下 昭彦氏